

# 本学の教育研究施設

## 1. 附属図書館 <http://www.lib.geidai.ac.jp/>

本学の附属図書館は1949年5月、東京藝術大学が発足した時、東京美術学校文庫と東京音楽学校図書課の蔵書を統合することで始まりました。

平成14年度からは、取手校地にも図書館分室が開室されています。

33万点の蔵書の約8割は芸術関係の資料で、美術書や音楽書などの図書以外にも、画集や楽譜は無論のこと、CD、LP、LD、DVD、VIDEOなどの視聴覚資料も多く所蔵しています。

### (1) 開館時間 (カッコ内は書庫内資料の請求時間)

| 上野本館        |                    | 取手分室        |        |
|-------------|--------------------|-------------|--------|
| 月～金曜日       | 9時～20時 (9時～18時30分) | 月～金曜日       | 9時～20時 |
| 試験期間中の月～金曜日 | 9時～21時 (9時～19時)    | 休業期間中の月～金曜日 | 9時～17時 |
| 休業期間中の月～金曜日 | 9時～17時 (9時～16時45分) | 土曜日         | 休館     |
| 土曜日         | 9時～17時 (9時～16時45分) |             |        |

### (2) 休館日

- ・日曜日・国民の祝日
- ・本学開学記念日 (10月4日)
- ・年末年始
- ・8月中の1週間、年度末の2週間
- ・取手分室の土曜日

※臨時休館日については、そのつど掲示します。

### (3) 文献複写サービス

月～金曜日 9時～12時30分, 13時30分～15時30分 (土曜日は受付けていません)

### (4) レファレンスサービス (参考調査・情報検索), ILLサービス (文献取寄)

月～金曜日 9時～12時30分, 13時30分～17時 (土曜日は受付けていません)

蔵書冊数

[資料別内訳]

(平成29年3月31日現在)

| 区分        | 数量        | 区分           | 数量      |
|-----------|-----------|--------------|---------|
| 和漢書       | 204,565 冊 | レーザーディスク     | 1,130 点 |
| 洋書        | 60,774 冊  | ビデオカセット      | 1,151 点 |
| 楽譜        | 64,807 冊  | マイクロフィルム     | 1,396 点 |
| レコード      | 10,355 点  | マイクロフィッシュ    | 3,704 点 |
| コンパクトディスク | 8,864 点   | DVD          | 1,831 点 |
| 計         |           | 358,572 冊(点) |         |

詳しくは「図書館利用案内」を参照してください。

## 2. 大学美術館 <http://www.geidai.ac.jp/museum/>

本学の芸術資料収集は、明治20年（1887）の東京美術学校設置に先立つ時期から行われてきました。現在の収蔵品は2万9000点余りに達しています。これらの芸術資料は、文庫と呼ばれた附属図書館の前身に納められていました。

昭和45年（1970）に附属図書館から芸術資料部門が独立し、音楽学部に保管されていた音楽学校時代の楽器資料等に加え、芸術資料館が発足し、美術・音楽両学部の共同利用機関として、芸術資料の研究・保存・公開のために活動を続けてきました。

しかしながら所蔵品の増加にともなって収蔵庫が狭隘になり、また老朽化した施設の改善やコレクションの規模に見合った十分な展示空間への要望が学内外から高まったことから、平成8年（1996）に美術館新館が着工されるにいたりました。そして平成10年（1998）には、美術館としての活動を発展させるべく、これまでの組織を拡充して、芸術資料館から大学美術館へと生まれ変わったのです。

美術作品やそれに関わる資料を収集し、それらを研究することによって新しい価値を見出す。さらに将来の評価にも備えて万全の設備によって保存し、研究の成果を展示や様々な普及活動によって公開する。美術館はそのような活動によって運営されています。東京藝術大学の大学美術館においては、そういった活動に加えて、制作と教育研究の現場である芸術大学という特質を合わせて、わが国に前例のない実験的な美術館として機能することを基本理念としています。

### (1) 大学美術館の各施設

[上野校地] 電話 050 (5525) 2200

本館：鉄筋鉄骨地上4階，地下4階，延床面積8,719.76m<sup>2</sup> [平成11年5月建築 六角鬼丈設計]

陳列館：鉄筋2階，延床面積429m<sup>2</sup> [昭和4年5月建築 岡田信一郎設計]

正木記念館：鉄筋2階，延床面積534m<sup>2</sup> [昭和10年7月建築 金沢庸治設計]

\*正木記念館は、東京美術学校第5代校長、正木直彦先生の永年にわたる功労を記念し、展示場として建設されました。

[取手校地] 電話 050 (5525) 2543

取手館：鉄筋鉄骨3階，延床面積2,945m<sup>2</sup> [平成6年9月建築 六角鬼丈設計]

### (2) 所蔵品の利用について

大学美術館の所蔵品を卒業論文・卒業制作等のために調査研究（閲覧，模写，模刻，撮影等）することを希望する者は、担当教員の承認を得たうえ、館長の許可を得て、利用することができます。（詳細は大学美術館管理係に相談してください）

なお、大学美術館では「蔵品目録」や展覧会カタログを逐次刊行しています。主要所蔵作品データは「蔵品目録」に収録されており、附属図書館において閲覧することができます。

### (3) 所蔵品について

大学美術館には次のような美術工芸品，標本，資料が所蔵されています。（平成29年4月1日現在）

| 分類    | 数量    | 分類        | 数量    | 分類     | 数量  | 分類        | 数量     |
|-------|-------|-----------|-------|--------|-----|-----------|--------|
| 文化財   | 32    | 金工        | 1,824 | 雑美術工芸品 | 575 | 学生制作品（音楽） | 19     |
| 東洋画真蹟 | 1,965 | 漆工        | 1,259 | デザイン   | 5   | 学生制作品（映像） | 9      |
| 東洋画模本 | 5,201 | 陶磁器       | 812   | 雑標本    | 839 | 版木        | 9      |
| 西洋画   | 1,321 | 染織        | 232   | 写真     | 514 | 複製        | 1,281  |
| 版画    | 683   | 建築        | 195   | 写真種板   | 79  | 拓本        | 399    |
| 書蹟    | 55    | 考古        | 488   | 石膏標本   | 379 | 教育研究資料    | 5      |
| 彫刻    | 1,332 | 学生制作品（美術） | 9,674 | 音楽資料   | 327 |           |        |
| 計     |       |           |       |        |     |           | 29,513 |

(注) 台帳上の登録件数による。

#### (4) 大学美術館への展覧会開催中の入館について

本学の学生は学生証を提示することで入館できます。

### 3. 社会連携センター [http://www.geidai.ac.jp/department/center/public\\_collaboration\\_center](http://www.geidai.ac.jp/department/center/public_collaboration_center)

大学には教育研究活動を行うこと以外に、社会全体の発展への寄与が期待されています。本学も展覧会、演奏会、公開講座等、市民が芸術に親しむ機会を提供していますが、これ以外にも公的機関の審議会等への教員の参加、作品の制作や展示、環境、空間、商品等のデザイン、また文化財の保存修復やソロからオーケストラに至る演奏など、さまざまな依頼や相談があります。社会連携センターは、こうした学外からの要請を受け止め、大学の関係情報の提供や調整を行う総合窓口として平成19年4月に設置されました。

さらにセンターでは、「藝大アーツイン丸の内」のように、積極的に地域社会、産業界、経済界と連携しながら本学の人的、芸術的資源を活かした事業をプロデュースすることにより、日本の文化芸術の振興に寄与するための活動を行っています。

平成27年には、「地域資源等を活用した産学連携による国際科学イノベーション拠点整備事業」として、「Arts & Science LAB.」（産学官連携棟）を上野キャンパス内に新設し、企業や大学単独では実現できない革新的なイノベーションを創出するプラットフォームづくりをスタートさせています。

### 4. 演奏芸術センター <https://www.pac.geidai.ac.jp/>

演奏芸術センターは、奏楽堂を舞台に、美術学部・音楽学部の枠を超えて、演奏および総合的舞台芸術の創造的な「場」をプロデュースするために、平成9年4月に創設された学内共同利用施設です。社会への情報発信の窓口の一つとして、本学の教育研究成果の発表をはじめとする、さまざまなコンサートの企画・制作・広報活動などを行っています。また、学生向けには主に舞台芸術に関する交流授業を開講しています。

### 5. 奏楽堂 [http://www.geidai.ac.jp/department/center/performing\\_arts\\_center](http://www.geidai.ac.jp/department/center/performing_arts_center)

明治23年に創設されて以来、音楽教育の練習、発表の場として永く使用されてきた旧東京音楽学校奏楽堂は、建物の老朽化が進み、また、音楽の演奏形態の拡大等に対応できなくなってきたため、昭和59年に解体し、その後、上野公園内に移築再建されました。

東京藝術大学奏楽堂は、コンサートホールとして新しく建設されたものです。ホール全体が一つの優れた楽器として、調和のとれた響を生むものとして考え、音響特性を使用目的に応じて変えられるよう、客席の天井全体を可動式にして音響空間を変化させる方法を採用しています。

また、古典から現代作品を演奏出来るフランスのガルニエ製オルガンを設置してあります。

建築面積：2,169.82平方メートル、延べ面積：6,539.83平方メートル

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄筋コンクリート、地下2階・地上5階

設計：（株）岡田新一設計事務所、音響設計協力：（株）永田音響設計

形状：シューボックスタイプ

座席：1,100席（1階956席、バルコニー席144席、オーケストラピット使用時978席）

## 6. 言語・音声トレーニングセンター

[http://www.geidai.ac.jp/department/center/foreign\\_languages](http://www.geidai.ac.jp/department/center/foreign_languages)

言語・音声トレーニングセンターは、国際舞台での活躍に必要な語学力を養成するためにさまざまな授業や学習支援プログラムを提供しています。

### (1) 外国語授業科目の開設

当センターでは、中級レベル以上の外国語（英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語）科目を開講しています。授業の詳しい内容については、別紙「言語・音声トレーニングセンター案内」および教務システム CampusPlan のシラバスを参照してください。授業を履修する際は、履修登録期間に CampusPlan から登録してください。

### (2) 外国語の個人指導

歌曲など舞台で使われる言語の発音・リズムの指導、外国語での論文執筆・発表の支援が受けられます（1回30分）。履修登録の必要はなく、当センターの教員室（音楽学部4号館4-201）で予約を受け付けています。

### (3) 外国語教材（書籍・DVD・CD）の貸し出し

外国語検定対策参考書や多読用小説など、外国語教材を自由に利用できます。一部の資料は貸し出しできませんが、資料室（音楽学部4号館4-202）で閲覧することができます。

### (4) 利用案内

利用対象者：本学の学生および教職員

開室時間：月～金曜日 10:00～17:00 ※春季・夏季閉室は学部の休業期間に準じます。

## 7. 芸術情報センター Art Media Center <http://amc.geidai.ac.jp>

「芸術情報センター（平成12年4月に「情報処理センター」として設置後改称）」は、学内共同利用施設として、上野・取手・横浜・千住・奈良を結んだキャンパス情報ネットワーク（学内LAN= Acanthus）の管理運用、情報メディアやファブリケーション機材を用いた講義・ワークショップ、情報技術を用いた情報発信のサポート等を日常業務として行っています。また、学内の情報化推進に向けて、さまざまな部局と連動し、クラウド化やアーカイブ化の実現等をサポートしています。セキュリティの向上、オープンネスの推進、情報発信のリテラシーというポリシーのもと、運営されています。

本学の学生・教職員が利用できるサービスは以下の通りです。

藝大アカウントの利用方法については、入学時に配布される資料や、芸術情報センターのwebサイトを参照してください。

### 1) 情報基盤

藝大アカウントのIDの管理とパスワードの発行、パスワードの再発行

メールリストの利用申請 [教職員のみ]

ネットワーク機器の接続（固定IP）申請 [教職員のみ]

藝大サブドメインを利用したWebサイトの開設申請 [教職員のみ]

### 2) 教育研究支援

コンピュータ演習室，サウンドスタジオ施設の利用

ファブリケーション機器，映像機器の使用

機材の貸し出し

機材やソフトウェア使用に関するワークショップ

### 3) 芸術情報センター開講講義

教職に関する科目「情報機器の操作」に関する科目

情報メディアに関する科目 など

利用できる人：本学の学生および教職員

開室日時：月曜日～金曜日 11:00～19:00

※大学休業期間の開室日、講義、イベント等については、芸術情報センター Web ページに掲載します。

## 8. 美術学部附属古美術研究施設 電話 050 (5525) 2779

美術教育の重要な一分野として古美術研究があります。奈良，京都を中心に現存する飛鳥以降の各時代の建造物，絵画，彫刻，工芸品等優れた古典芸術の習熟は，美術教育の上で欠くことができないものです。

大学の前身東京美術学校の創立者岡倉天心は，明治30年において既にこの点に留意し，奈良市内に敷地を定め分校創立に努力した経緯があります。その後も歴代の学校長は，奈良における研究所又は分校の設置を切望し続けました。

東京藝術大学になってからもこの努力が続けられ，ようやく昭和35年3月1日旧奈良学芸大学（現奈良教育大学）附属図書館跡の建物の所属替を受けることができ，全面的に改築して同年9月13日奈良研究室を開所し，美術学部学生の古美術研究旅行の拠点とするとともに教職員学生の古美術研究の施設として活用してきました。

昭和40年4月，奈良研究室を改めて美術学部附属研究施設として発展したが，建物が老朽化したため，新しく3階建の鉄筋コンクリートに改築，昭和47年3月13日竣工しました。同敷地は興福寺喜多院の跡であったため工事途上，埋蔵文化財の発掘を行い幾多の資料が発見されました。

同施設は古美術研究旅行，教員の古美術研究に優先して使用しますが，それ以外の時は一般学生の研究旅行に利用できるもので，必要な手続きをして利用してください。

なお，利用についての詳細は，古美術研究施設に相談してください。

○場所 〒630-8213 奈良市登大路町6（文化会館の隣）

○施設 3階建 958.7m<sup>2</sup>・収容人員 学生 40名

